

高等小學書方手本

女子用
第二學年下乙種

K140.72
2.22
2下

K140.72

2.22

2下

高等小學書卡方手本

女子用第二學年下乙種

文部省

かけまゝも畏れども天皇
皇后南陛下の春秋に富ませ
給ひて竹の園生の年とてまに

茂りしつゝもとまはば大地
と記りたるも園の葉もおも
はれて黄一とて黄からすや。

特別保護建造物。

鳳凰堂莊嚴華麗。

資金融通抵當位

五

利高步購買販賣

六

高二子

高二子

畫。翰。反。法。執。筆。管。

卷二下

潔。潔。潔。要。耐。耐。抄。抄。

卷二下

拜啓至急御相談お願度儀
これあり明後日午後二時

貴同被度お出都合如何に也
折返し此一報致上云々

御手紙の振領迄は
終日在りて付か上り申

何事迄申下され度か

敬具

秋の頃さうわづらひて久しく里居
しづかに由わたつを思ひやりて
九重の秋のにしきはらかならん
庭の蔭もほこらでけり。

十三

高二十七

その頃高崎大人の身に録りぬる仰き
どもをつたへたまへるを思ひみて
露ならぬ玉のみを思を傳へ来て
身にしみわたる秋の風かな。

高二十八

十四

襖。衝。立。額。車。軸。物。違。

十五

高二十

棚。地。袋。欄。間。緣。側。

十六

高二十

燕。趙。韓。魏。齊。楚。秦。

十七

高二十

漢。晉。唐。宋。元。明。清。

十八

高二十

拜啓先達は某堂色く馬馳走に相成り
有り難く御禮申上る其の際由約束致不寄
附金別紙為替を以て由送り申上る旨申上り
ながら然るべく由取計下されたく由敬具

御手紙お見仕る過日馬光来の節は何の
風情もこれなく失礼致す由封入の爲替早速
先方へ相渡し別紙領收證由送り申上る旨
由落書下されたる先は要用のみ申上り

東岸西岸必極奇觀。同。

東岸西岸必極奇觀。同。

單衣。袷。綿。入。被。布。

繻。絆。股。引。前。垂。帶。

救世濟民奮鬥努力

力宥怒愛撫慰藉

庭の若草茂り合ひ青柳絲を亂りつ池
の浮草は波に漂ひて錦を曝すかこあや
またる。中島の松にかれる藤波の紫に咲

ける色青葉まじりの遅櫻初花よりも珍
しく岸の山吹咲乱れ八重立つ雲の絶間より
山時鳥の一聲も君の御幸を待顔なり。

仕立上寸法

本裁女物單衣

袖丈一尺五寸
 袖口明 六寸乃至六寸五分
 袖附六寸五分
 袖幅八寸五分
 袂丸五分
 身丈四尺

身八寸三寸
 肩幅八寸
 抱幅五寸五分
 合裊幅三寸五分

衿肩明二寸三分
 衿下リ六寸
 衿下二尺
 衿幅三寸

後幅七寸五分
 前幅六寸
 衿幅四寸
 衿一尺六寸五分

沈着。敏捷。率直。敦厚。

輕躁。遲鈍。執拗。浮薄。

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ルルコト宏遠ニ
德ヲ樹ルルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク
孝ニ億兆心ヲニシテ世々厥ノ美ヲ濟ルル此レ我カ

國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス
爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友
相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ

業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ
公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ヲ遵ヒ
一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ

皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キ獨リ朕カ忠良ノ
臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯
彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニテ子孫
臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ
謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民俱ニ

拳々服膺シテ咸其徳ヲニセンコトヲ庶幾フ
明治二十三年十月三十日

御名 御璽

K140.72-2.22-27



大大大大
正正正正
四四四四
年年年年
六六五五
月月月月
廿廿
七一八

著作權所有

日日日日
翻翻翻翻
刻刻刻刻
發發發發
行行行行

大正四年六月二日
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新
右衛門町十六番地
株式會社

國定教科書共同販賣所

高等小學書
第二學年女子用下乙種

定價金參錢

文部省
板倉折枝

翻刻發行
爭印者

代表者

大阪市南區難波南町千八百八十八番地ノ九

大阪書籍株式會社

大阪市南區難波南町千八百八十八番地ノ九

